

Japanese Utility Model Application Laid-Open No. S60-90369

Publication Date: June 20, 1985

Applicant: Kabushiki Kaisha Hasegawa Komuten

公開実用 昭和60—190369

⑨日本国特許庁 (JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報 (U)

昭60—90369

⑩Int.Cl.
E 05 D 11/00

識別記号
厅内整理番号
7322-2E

⑬公開 昭和60年(1985)6月20日

審査請求 未請求 (全頁)

⑭考案の名称 振宝珠型蝶番のカバー

⑮実 類 昭58-183241

⑯出 願 昭58(1983)11月28日

⑰考 案 者 中曾 駿紀 八尾市植松町6-4-15

⑱出 願 人 株式会社長谷川工務店 東京都港区芝2丁目32番1号

⑲代 理 人 弁理士 藤本 英夫

BEST AVAILABLE COPY

明細書

1. 考案の名称

擬宝珠型蝶番のカバー

2. 実用新案登録請求の範囲

① 封面から突出する擬宝珠型蝶番の両蝶番板体の外面ならびに該板体どうしの枢支連結部の外面を覆うカバー部分を、軟質の合成樹脂によつて一体成型すると共に、該カバー部分の上下端縁を前記蝶番の上下端よりも上下に突出させるべく、~~当該カバー部分の上下寸法を~~ 当該カバー部分の上下寸法を蝶番の上下寸法よりも大に構成してあること^製を特徴とする擬宝珠蝶番のカバー。

② 前記蝶番板体外面を覆うカバー部分と前記枢支連結部外面を覆うカバー部分との境界部に凹所を設けてあることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第①項に記載の擬宝珠型蝶番のカバー。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、擬宝珠型蝶番に装着することによ

(1)

683



実用60-90369

つて安全を図り得るカバーの提供を目的としている。

擬宝珠型の蝶番は、その構造上、枢支連結部が扉面から突出することを避け得ず、而して、特に幼児らが前記枢支連結部に頭などを打ちつけて負傷する等の危険性が大であつた。

本考案は、上記の実情に鑑みて案出されたものであつて、構成的に極めて簡単でかつ安価なものでありながら、安全性を十分に確保できるようにせんとするものであり、而して本考案による擬宝珠型蝶番のカバーは、扉面から突出する擬宝珠型蝶番の両蝶番板体の外面ならびに該板体どうしの枢支連結部の外面を覆うカバー部分を、軟質の合成樹脂によつて一体成型すると共に、該カバー部分の上下端縁を前記蝶番の上下端よりも上下に突出させるべく、当該カバー部分の上下寸法を蝶番の上下寸法よりも大に構成した点に特徴がある。

以下、本考案の実施例を図面に基づいて説明すると、第1図は玄関扉部分を示し、建屋壁部

(2)

684

1に擬宝珠型蝶番2, 2を介して玄関扉3が開閉自在に枢着されている。

前記擬宝珠型蝶番2は、第2図に示すように、一側縁に枢着部αを備えた一对の蝶番板体4, 4と、該板体4, 4の枢着部α, αを連結するピン5とから成り、前記枢着部α, αとピン5とによる枢支連結部Aと該枢支連結部A近くの前記両蝶番板体4, 4部分とを、扉面Sから突出させる状態で、前記建屋壁部1と扉3とにわかつてビス止めされる。

この蝶番2の前記扉面Sから突出する部分には、安全性を考慮してカバー6が取付けられている。

次に、前記カバー6の具体構造について説明すると、このカバー6は、同じく第2図に示すように、扉面Sから突出する一对の蝶番板体4, 4の外面を覆う第1カバー部分6a, 6aと、前記枢支連結部Aの外面を覆う第2カバー部分6bとから成り、かつ、両カバー部分6a, 6bの夫々の境界部に凹所6c, 6cを有せしめ

(3)

685

モール状態で、軟質の合成樹脂によつて一体成型してある。

250mm

そして、該カバー6の上下寸法は、蝶番2の上下寸法よりもやや大に構成してあつて、蝶番突出部に対する外振幅の状態で、カバー6の上下端縁を蝶番2の上下端よりも上下に突出させることができるようになつてゐる。

従つて、蝶番2の突出部に頭などを打ちつけるようなことがあつても、合成樹脂製カバー6によつてその衝撃を緩和させ得るもので、大事に至るほどの傷を負うことなくせるのである。

そして、前記カバー6を軟質の合成樹脂製とするので、しかも、両カバー部分6a, 6bの境界部に凹所6cを設けてあるので、該カバー6が扉3の開閉にとつて何ら悪影響を及ぼすことも無い。

尚、前記凹所6cを省略して実施するも良い。

さて、前記蝶番2の突出部に対してカバー6を装着するに、例えは、前記枢支連結部Aを除く蝶番板体4, 4の外面、又は、当該外面に対

(4)

686

応するカバー部分 6^a, 6^c の内面に、接着剤を塗布し、あるいは、離型紙付きの両面粘着テープを付して、カバー 6 を蝶番 2 に接着結合させる形態をとれば良い。

第3図にカバー 6 の別実施例を示す。このものは、両カバー部分 6^a, 6^b, 6^c の上縁部に、蝶番上縁に当接するカバー部分 6^d, 6^e を連設したもので、該カバー部分 6^d, 6^e を蝶番上縁に当接させる如くに、カバー 6 を蝶番 2 に外嵌合させるだけで、接着に頼ることなく装着できる点に特徴がある。

尚、蝶番下縁に当接するカバー部分を設けて実施するも良く、更には、接着による接合を併用するも良い。

以上説明したように、本考案によるカバーを擬宝珠型蝶番の扉面からの突出部に装着するだけで、極めて簡単に安全なる状態を現出させ得るものであり、しかも、カバー自体は構成的に極めて簡単かつ安価なものであり、換言すれば、安全状態を安価に得られるもので、特に幼児を

抱える家庭にとつて有用なる安全対策を安価に
提供するに至つた。

4. 図面の簡単な説明

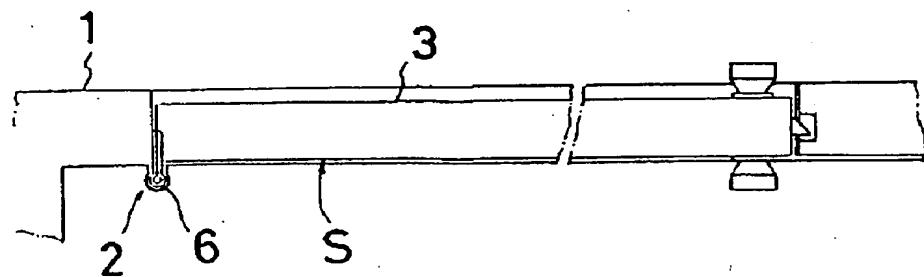
図面は本考案の実施例を示し、第1図は扉部
分の平面図、第2図は要部の斜視図、第3図は
別実施例の斜視図である。

2 … 摺宝珠型蝶番、4 … 蝶番板体、6 a ,
6 b … カバー部分、6 c … 四所、A … 柱支
連結部、S … 扉面。

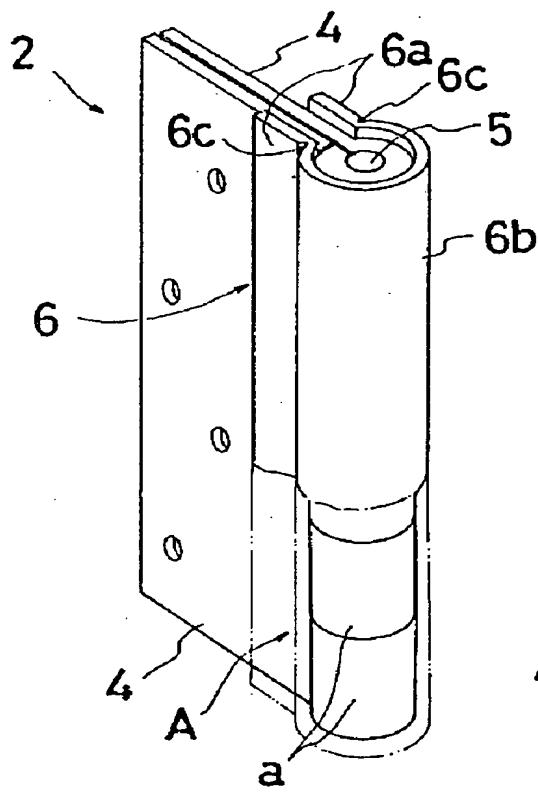
(6)

688

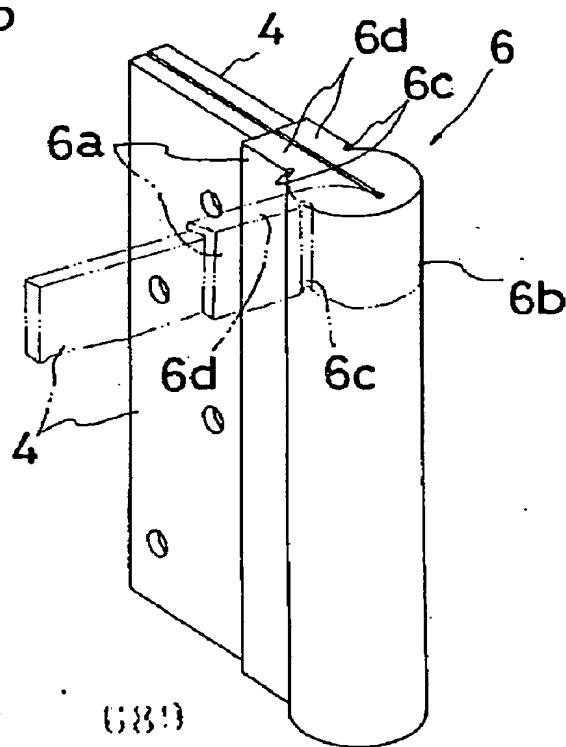
第1図



第2図



第3図



実開60-90369